

6. 県行政の取組に対する認知意識について

(1) 認知している人のみの重要度、満足度の結果

県行政の取組を認知している人のみの重要度、満足度の結果は以下ようになった。

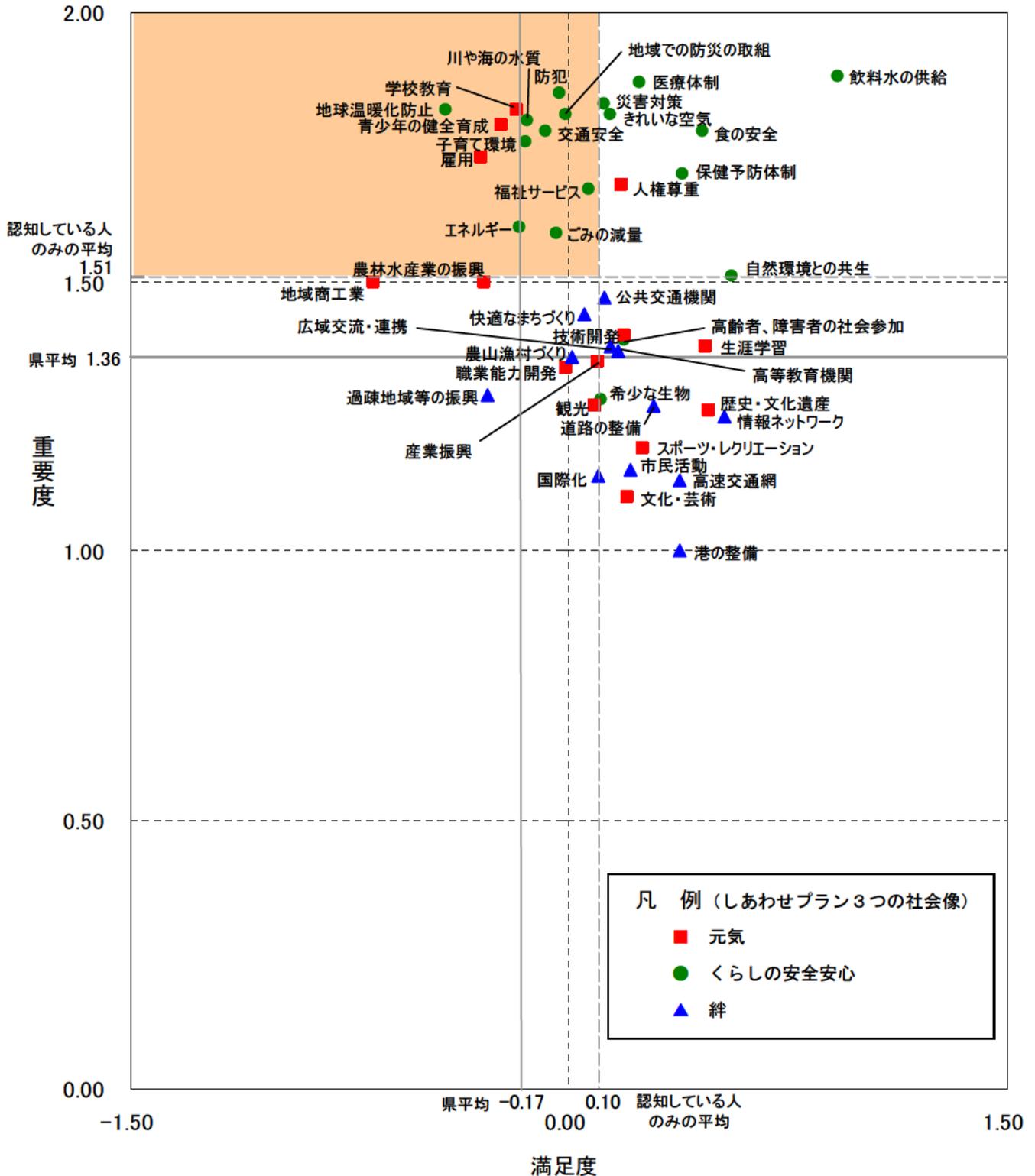
重要度は「04. 青少年の健全育成」を除く全ての項目について、回答者全員を対象とした場合より高く、満足度は全ての項目について回答者全員を対象とした場合より高くなっている。

表 認知している人のみの重要度、満足度

順位	項目	重要度	項目	満足度
1位	44. 飲料水の供給	1.88	44. 飲料水の供給	0.92
2位	18. 医療体制	1.87	20. 自然環境との共生	0.56
3位	13. 防犯	1.85	35. 情報ネットワーク	0.53
4位	11. 災害対策	1.83	08. 歴史・文化遺産	0.48
5位	03. 学校教育	1.82	02. 生涯学習	0.47
6位	25. 地球温暖化防止	1.82	14. 食の安全	0.46
7位	10. 地域での防災の取組	1.81	16. 保健予防体制	0.39
8位	23. きれいな空気	1.81	36. 高速交通網	0.38
9位	24. 川や海の水質	1.80	39. 港の整備	0.38
10位	04. 青少年の健全育成	1.79	37. 道路の整備	0.29
11位	12. 交通安全	1.78	09. スポーツ・レクリエーション	0.25
12位	14. 食の安全	1.78	18. 医療体制	0.24
13位	17. 子育て環境	1.76	06. 市民活動	0.21
14位	31. 雇用	1.73	07. 文化・芸術	0.20
15位	16. 保健予防体制	1.70	15. 高齢者、障害者の社会参加	0.19
16位	01. 人権尊重	1.68	29. 技術開発	0.19
17位	19. 福祉サービス	1.67	01. 人権尊重	0.18
18位	43. エネルギー	1.60	05. 高等教育機関	0.17
19位	22. ごみの減量	1.59	23. きれいな空気	0.14
20位	20. 自然環境との共生	1.51	34. 広域交流・連携	0.14
21位	26. 農林水産業の振興	1.50	11. 災害対策	0.12
22位	30. 地域商工業	1.50	38. 公共交通機関	0.12
23位	38. 公共交通機関	1.47	21. 希少な生物	0.11
24位	40. 快適なまちづくり	1.44	27. 産業振興	0.10
25位	29. 技術開発	1.40	33. 国際化	0.10
26位	15. 高齢者、障害者の社会参加	1.39	28. 観光	0.09
27位	02. 生涯学習	1.38	19. 福祉サービス	0.07
28位	34. 広域交流・連携	1.38	40. 快適なまちづくり	0.05
29位	05. 高等教育機関	1.37	41. 農山漁村づくり	0.01
30位	41. 農山漁村づくり	1.36	10. 地域での防災の取組	-0.01
31位	27. 産業振興	1.35	32. 職業能力開発	-0.01
32位	32. 職業能力開発	1.34	13. 防犯	-0.03
33位	42. 過疎地域等の振興	1.29	22. ごみの減量	-0.04
34位	21. 希少な生物	1.28	12. 交通安全	-0.08
35位	28. 観光	1.27	24. 川や海の水質	-0.14
36位	37. 道路の整備	1.27	17. 子育て環境	-0.15
37位	08. 歴史・文化遺産	1.26	43. エネルギー	-0.17
38位	35. 情報ネットワーク	1.25	03. 学校教育	-0.18
39位	09. スポーツ・レクリエーション	1.19	04. 青少年の健全育成	-0.23
40位	06. 市民活動	1.15	42. 過疎地域等の振興	-0.28
41位	33. 国際化	1.14	26. 農林水産業の振興	-0.29
42位	36. 高速交通網	1.13	31. 雇用	-0.30
43位	07. 文化・芸術	1.10	25. 地球温暖化防止	-0.42
44位	39. 港の整備	1.00	30. 地域商工業	-0.67
	重要度平均	1.51	満足度平均	0.10

(2) 認知している人のみの重要度、満足度プロット図

図 認知している人のみの重要度と満足度の関係（平成 19 年度）



(3) 認知していない人のみの重要度、満足度の結果

県行政の取組を認知していない人(「あまり知らない」+「知らない」)のみの重要度、満足度の結果は以下のようになった。

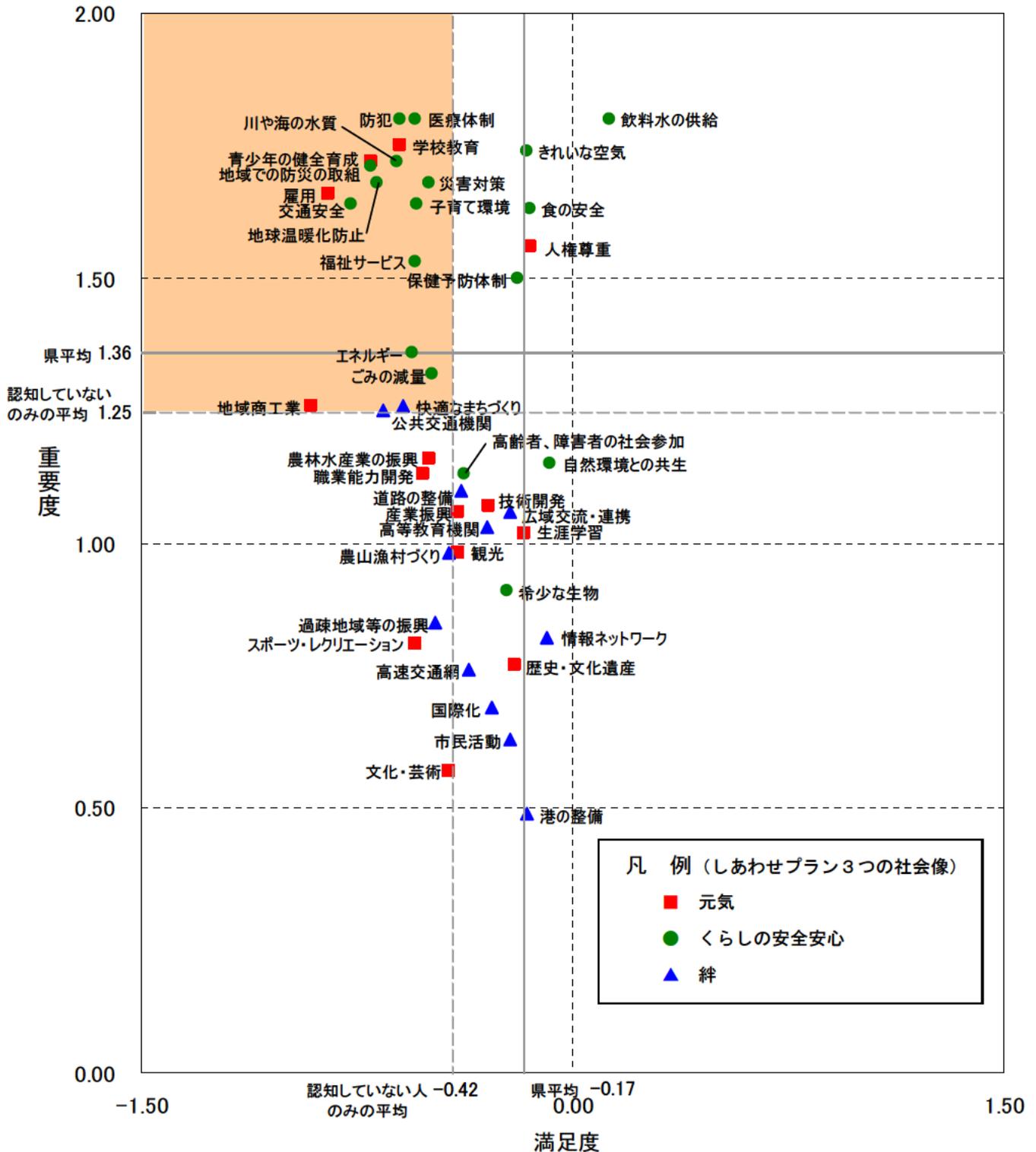
重要度、満足度ともに、認知している人のみの場合と比べて低くなっている。

表 認知していない人のみの重要度、満足度

順位	項目	重要度	項目	満足度
1位	13.防犯	1.80	44.飲料水の供給	0.13
2位	18.医療体制	1.80	20.自然環境との共生	-0.08
3位	44.飲料水の供給	1.80	35.情報ネットワーク	-0.09
4位	03.学校教育	1.75	01.人権尊重	-0.15
5位	23.きれいな空気	1.74	14.食の安全	-0.15
6位	04.青少年の健全育成	1.72	23.きれいな空気	-0.16
7位	24.川や海の水質	1.72	39.港の整備	-0.16
8位	10.地域での防災の取組	1.71	02.生涯学習	-0.17
9位	11.災害対策	1.68	16.保健予防体制	-0.19
10位	25.地球温暖化防止	1.68	08.歴史・文化遺産	-0.20
11位	31.雇用	1.66	06.市民活動	-0.22
12位	12.交通安全	1.64	34.広域交流・連携	-0.22
13位	17.子育て環境	1.64	21.希少な生物	-0.23
14位	14.食の安全	1.63	33.国際化	-0.28
15位	01.人権尊重	1.56	29.技術開発	-0.29
16位	19.福祉サービス	1.53	05.高等教育機関	-0.30
17位	16.保健予防体制	1.50	36.高速交通網	-0.36
18位	43.エネルギー	1.36	15.高齢者、障害者の社会参加	-0.38
19位	22.ごみの減量	1.32	37.道路の整備	-0.39
20位	30.地域商工業	1.26	27.産業振興	-0.40
21位	40.快適なまちづくり	1.26	28.観光	-0.40
22位	38.公共交通機関	1.25	07.文化・芸術	-0.43
23位	26.農林水産業の振興	1.16	41.農山漁村づくり	-0.43
24位	20.自然環境との共生	1.15	42.過疎地域等の振興	-0.48
25位	15.高齢者、障害者の社会参加	1.13	22.ごみの減量	-0.49
26位	32.職業能力開発	1.13	11.災害対策	-0.50
27位	37.道路の整備	1.10	26.農林水産業の振興	-0.50
28位	29.技術開発	1.07	32.職業能力開発	-0.52
29位	27.産業振興	1.06	17.子育て環境	-0.54
30位	34.広域交流・連携	1.06	09.スポーツ・レクリエーション	-0.55
31位	05.高等教育機関	1.03	18.医療体制	-0.55
32位	02.生涯学習	1.02	19.福祉サービス	-0.55
33位	28.観光	0.98	43.エネルギー	-0.56
34位	41.農山漁村づくり	0.98	40.快適なまちづくり	-0.59
35位	21.希少な生物	0.91	03.学校教育	-0.60
36位	42.過疎地域等の振興	0.85	13.防犯	-0.60
37位	35.情報ネットワーク	0.82	24.川や海の水質	-0.61
38位	09.スポーツ・レクリエーション	0.81	38.公共交通機関	-0.66
39位	08.歴史・文化遺産	0.77	25.地球温暖化防止	-0.68
40位	36.高速交通網	0.76	04.青少年の健全育成	-0.70
41位	33.国際化	0.69	10.地域での防災の取組	-0.70
42位	06.市民活動	0.63	12.交通安全	-0.77
43位	07.文化・芸術	0.57	31.雇用	-0.85
44位	39.港の整備	0.49	30.地域商工業	-0.91
	重要度平均	1.25	満足度平均	-0.42

(4) 認知していない人のみの重要度、満足度プロット図

図 認知していない人のみの重要度と満足度の関係（平成19年度）



認知している人のみを対象とした場合の重要度、満足度は全体的に拡がり小さく、回答者全員を対象にした場合と比較して右上方に移行している。それは、満足度の平均から見ても明らかであり、重要度、満足度ともに全てを対象とした場合より高くなっている。

また、認知している人のみを対象とした場合の重要度は全ての施策が1.0を上回っており、施策の取組を知っているからこそ重要性を訴える傾向がみられ、満足度についても施策の取組を知っているからこそ満足している傾向がみられる。

認知している人と認知していない人とを比較すると、44項目全ての重要度、満足度は、認知している人のみを対象とした場合が認知していない人のみを対象とした場合を上回っており、施策の取組を知っているほど重要性を訴える傾向や、施策の取組を知っているほど満足している傾向がみられる。そのため、施策の重要性を理解し、満足してもらうためにはさらなる啓発活動が必要といえる。

例えば重要度について、認知している人としていない人との差が大きいものとして「文化・芸術」「市民活動」「港の整備」「歴史・文化遺産」「国際化」等があげられる。このうち「文化・芸術」(38.8%)、「歴史・文化遺産」(47.5%)、「市民活動」(49.4%)は認知意識が約4～5割を占めているものの、「港の整備」(27.1%)、「国際化」(22.6%)等は認知意識が3割未満であり、県の取組自体の認知度が低い項目である。したがって、これらの取組を今後積極的にPRすることにより、施策や事業の必要性について県民の理解の高まりが期待できる項目といえる。

また、満足度についても、認知している人としていない人との差が大きいものとして「スポーツ・レクリエーション」「医療体制」「飲料水の供給」「公共交通機関」「高速交通網」等があげられるが、特に「公共交通機関」はおよそ3人に1人の割合(35.0%)にしか取組が認知されていない状況に置かれている。これらの項目は、取組内容を知ってもらうことで満足度があがる可能性を持つ施策であるといえる。

表 認知している人と認知していない人とで差が大きい項目

重要度				満足度			
項目	認知している人のみの重要度	認知していない人のみの重要度	差	項目	認知している人のみの満足度	認知していない人のみの満足度	差
07.文化・芸術	1.10	0.57	0.53	09.スポーツ・レクリエーション	0.25	-0.55	0.80
06.市民活動	1.15	0.63	0.52	18.医療体制	0.24	-0.55	0.79
39.港の整備	1.00	0.49	0.51	44.飲料水の供給	0.92	0.13	0.79
08.歴史・文化遺産	1.26	0.77	0.49	38.公共交通機関	0.12	-0.66	0.78
33.国際化	1.14	0.69	0.45	36.高速交通網	0.38	-0.36	0.74

一方、認知している人としていない人の重要度の差が0.1未満の項目として「防犯」「学校教育」「青少年の健全育成」「医療体制」「きれいな空気」「雇用」「飲料水の供給」「川や海の水質」があげられる。これらはいずれも重要度が高い項目であり、認知の如何に関わらず重要と感じている人が多いことがうかがえる。

表 認知している人と認知していない人とで重要度の差が小さい項目

項目	認知している人のみの重要度	認知していない人のみの重要度	差	重要度順位
13.防犯	1.85	1.80	0.05	1位
03.学校教育	1.82	1.75	0.07	8位
04.青少年の健全育成	1.79	1.72	0.07	9位
18.医療体制	1.87	1.80	0.07	3位
23.きれいな空気	1.81	1.74	0.07	5位
31.雇用	1.73	1.66	0.07	13位
44.飲料水の供給	1.88	1.80	0.08	2位
24.川や海の水質	1.80	1.72	0.08	6位